

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.41



城内の樹木めぐり案内



The Castle, of Hiroshima.

城 島 廣

①被爆前の天守閣（北西から）
大正時代末期～昭和時代初期 広島城蔵
お堀端には、スギが勢いよく伸びています。



②現在の天守閣（①と同位置）
現在のお堀端にはソメイヨシノやクスノキ
が植樹されています。平成26年春撮影

春風や城あらはるゝ松の上

この俳句は、明治28年（1895）3月6日に日清戦争の従軍記者として広島にやってきた正岡子規が、宇品港から遼東半島に渡る4月10日までの広島滞在中に広島城を詠んだものです。当時、城周辺には多くのマツが植えられ、マツ越しに浮き立って見える天守閣が印象的だったのでしょうか。今はそこまでマツは目立ちません。

江戸時代、城には目隠しのため、主にスギやマツの針葉樹が植えられていました。広島城中で編纂した記録『事蹟緒鑑』にも、天明4年（1784）、桐の段（本丸内か？）の堀端にはエノキ類を植えていたが、冬になると落葉し見透かされてしまうので、その間にスギを植えるようにと記されています。マツも同様に枝が低く垂れ、目隠しに適していました。（『しろや広島城No.3』参照）

明治時代以降も①の絵葉書を見ての通り、スギが立ち並び、江戸時代からの様相が残っていたことがわかります。

しかし、昭和20年（1945）8月6日の原爆投下によって広島城内は、建物はもとよりそれを

囲む樹木も爆風・火災により壊滅的被害を受けました。

その翌年、広島市が『広島復興都市計画』を策定し、広島城跡は大公園に指定され、「中央公園」として整備が始まりました。

昭和30年（1955）以降、中央公園では植樹の他に、トイレ・ベンチ・階段設置、コンクリート舗装などの公園整備が活発化していきました。

その当時、天守閣が再建された昭和33年の写真③を見ると、天守閣が丸見えで、戦後植えた樹木はまだまだまだ低かったようですね。生い茂る現状と比べると、新鮮味あふれる風景です。

③再建当時の天守閣
（南西から）
天守閣が上から下まではっきり見えます。
昭和33年・広島城リーフレットより 個人蔵



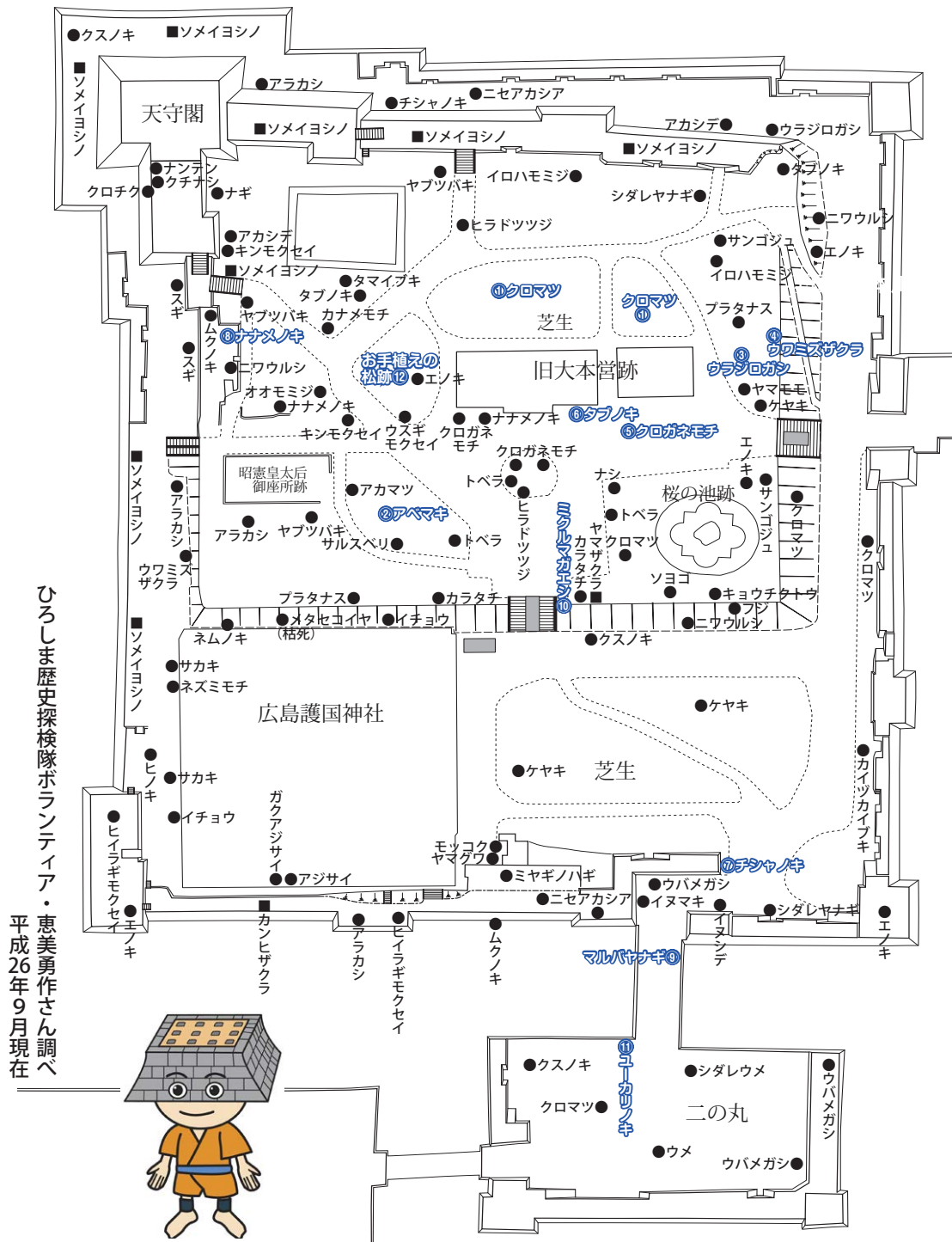
みなさんが訪れる内堀に囲まれた広島城跡の広さは約12万㎡あり、その中に市が計画的に植えたもの、寄贈・植樹祭等のイベントで植えたもの、自生しているものが混在し、約70種類1,100本あまりの樹木を見ることができます。

そのうち、ソメイヨシノ・クロマツ・クスノキ・エノキ・アラカシが多数を占めます。クロマツについては、本丸御殿跡付近（現・旧大本営跡北側・マップ⑪）に、日本庭園を意識してクロマツと芝が植栽され、城跡らしい景観も演出しています。

それではこれより広島城跡の主な樹木を観察していきましょう。



広島城内の生い茂る樹木



ひろしま歴史探検隊ボランティア・恵美勇作さん調べ
平成26年9月現在

城内を彩る主な樹木マップ

※被爆樹木以外は、同種の樹木を複数紹介していますが、より見つけやすい場所の樹木に番号を付けています。



②アベマキ (栲)

◆ブナ科 落葉高木
花期は4～5月で、新枝の基部から黄褐色の尾花が垂れ下がる。果期は翌年10月頃で、1年以上かけて大きなドングリになる。かつては、アベマキの厚い樹皮からコルクを取っていた。



③ウラジロガシ (裏白栲)

◆ブナ科 常緑高木
花期は4～5月で、雌花は緑色で新枝の上に直立し、雄花は黄色で5～6cmの紐状の穂を垂れる。果期は翌年9～10月で、1年以上かけて細長いドングリになる。葉の表にはツヤがあり、裏は白いことが名の由来。

花



④ウワミズザクラ (上溝桜)

◆バラ科 落葉高木
花期は4～5月で、白い花が房状に咲く。果期は7～9月で、塩漬けや果実酒として利用される。名は、この材に溝を掘り、占いに使用したことに由来し、なまってウワミズとなったらしい。



※ 雌雄異株とは雄と雌の木が異なる樹木



⑥被爆樹木 夕刈ガネモチ (黒鉄鵜)

◆モチノキ科 常緑高木・雌雄異株
爆心地から約910mの位置。傍の旧大本堂は倒壊したが生き残った。花期は5～6月。葉は革質で表面には光沢があり、明るい縁取り線が見える。枝や葉がやや黒ずむところが名の由来といわれる。



⑥タブノキ (梣の木)

◆クスノキ科 常緑高木
花期は5～6月、枝先に黄緑色の小花が多数咲く。建築材・家具材・パルプ材に利用する他、樹皮から黄色の染料が得られる。クスノキに似ているため、別名イヌグス(クスノキにあらず)という。



⑦チシャノキ (莚の木) 花

◆ムラサキ科 落葉高木
花期は6月頃で、白い小花を集めつける。果期は9～10月で、黄褐色の実に熟す。チシャの味に若葉が似ていることが名の由来。カキの葉に似ているため別名カキノキダマシという。



⑧ナナムノキ (斜めの木)

◆モチノキ科 常緑高木・雌雄異株
花期は6月頃で淡い紫色の小花を集めつける。果期は10～11月で、楕円形の赤い実になる。葉は長楕円形で、先はやや尖る。名の由来は、枝を折ると一様に斜めに割れる、美しい実を多数付ける(七実の木)等の説がある。



⑨被爆樹木 マルバヤナギ (丸葉柳) ◆ヤナギ科 落葉高木・雌雄異株

爆心地から約770mの位置。中御門・二の丸の建物群が炎上する中で生き残った。現在、青々と葉を付けているが、幹の痛みが激しく空洞化している。花期は4～5月。他のヤナギよりも花期が遅く、葉が出た後に開花。葉が広い楕円形なので、マルバヤナギの名がある。また新芽が赤いことから別名アカメヤナギという。



⑩サクラ・ミクマルマガエシ (御車返し) ◆バラ科 落葉高木

花期は4月で濃いピンク色の華やかな花を咲かせる。江戸時代の後水尾天皇がその美しさに惹かれて車を引き返したという故事が名の由来と言われる。果期は5月頃で、約1cmの黒紫色の実に熟す。

⑪被爆樹木 ユーカリノキ ◆フトモモ科 常緑高木

爆心地から約740mの距離。すぐそばの二の丸の建物群が炎上する中で生き残った。爆心地の方を向いた南側には焼けただれた跡もある。昭和46年(1971)の台風で上部が折れたが、再び芽吹いた。

葉は細長く先が尖る。幹はややねじれた感じに生育し、老木になると樹皮がよくはげる。明治時代以降に渡来した植物。



皇太子殿下お手植の松

大正15年(1926)5月、皇太子殿下裕仁親王(のちの昭和天皇)が岡山・広島・山口に行啓され、広島市内には24～26日まで滞在されました。

殿下は、広島城本丸跡にあった旧大本営(日清戦争時の明治天皇の御座所)を御泊所とし、天守閣にも登って第5層から広島市街を一望され、地図を広げながら、浜田恒之助知事にいろいろ質問をなさったそうです。

殿下は滞在中、旧大本営と天守閣の間に、松の手植えをされました(マップ⑫)。その後、石柱を巡らして大切に育てられた松ですが、19年後

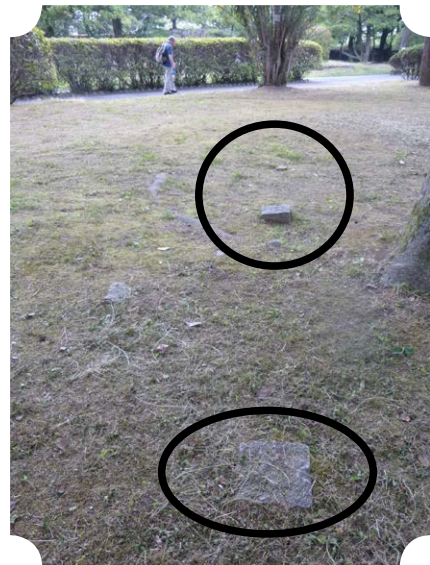
の昭和20年(1945)8月6日の原爆の爆風、もしくはその直後、9月17日の枕崎台風被害によって、無残にも写真のように折れ曲がってしまいました。

その後、時期は不明ですが石柱列も地表面にあわせて折られましたが、その下部は発掘調査により地中に眠っていることがわかっています。

今や松も石柱も見ることはいませんが、そのわずかながらの石柱が芝生から数か所露出しています。ぜひ探してみてください。(山縣紀子)



折れ曲がってしまった皇太子殿下お手植の松(昭和20年10月)林重男氏撮影
広島平和記念資料館提供



芝生から顔を覗かせる石柱の遺構



編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成26年9月19日発行

広島城利用案内

開館時間：9:00～18:00
(12月～2月は9:00～17:00)
入館の受付は閉館の30分前まで

観覧料：大人370円(280円) 中学生以下無料
高校生相当・シニア(65歳以上)180円(100円)
()内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～31日(臨時休館あり)
ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト